

**クレディセゾン、一般社団法人金融データ活用推進協会 が主催する
FDUA アワード 特別賞（人材育成）を受賞**

株式会社クレディセゾン（本社：東京都豊島区、代表取締役（兼）社長執行役員 COO：水野 克己、以下：当社）は、このたび、一般社団法人金融データ活用推進協会（略称：FDUA、東京都中央区茅場町、代表理事：岡田拓郎）が主催する「FDUA アワード 2025」において、データ推進組織によるデータ活用文化の醸成とデジタル人材育成モデルの構築が評価され、特別賞（人材育成）を受賞しましたので、お知らせいたします。



FDUA アワードは、金融機関におけるデータ活用を高度化し、業界全体の水準向上を図ることを目的に、今年度より創設した金融データ活用の模範となる取組みを表彰する制度です。アワードでは、先進的な実践ノウハウを共有するとともに、FDUA 標準化委員会の提供するセルフチェック活動の普及と金融機関のモチベーション向上をめざしています。

授賞理由

■「データ推進組織によるデータ活用文化の醸成とデジタル人材育成モデルの構築」

- ・ 2021 年、わずか 4 名で発足したデータ分析チームとデータ可視化チームから成るデータ推進組織を 3 年で 20 名規模に拡大し、分析・可視化・リサーチ・エンジニアリングを担うマルチスキル人材を自前で育成した。
- ・ データ可視化チームは Tableau ライセンスを全社へ配布し、約 3700 人のデータ可視化を推進。社内データを用いた独自学習コンテンツ「Tableau Skill Belt」や半期制の実践講座「デジタル認定制度」を開発するなど、多角的な取り組みを通じてデジタル人材を育成、データ活用文化の醸成を実現。さらに、高度な Tableau 能力を持つ人材が各部門に存在する“部門 CoE”構想を立ち上げ、対応スピードの向上、各部門の自走を促進する取り組みも推進している。
- ・ データ分析チームは Python/R を使用し、機械学習モデルによるカード入会審査手続きの簡素化や不正利用検知の高度化など、ビジネスインパクトの大きい成果を次々に創出した。
- ・ 成功事例を社内外へ発信し、データ活用を「特別な仕事」から「誰もが挑む標準業務」へ引き上げた。こうした環境が社内のキャリア志向を刺激し、異動希望者が増加。新卒採用も開始され、組織は持続的なタレントパイプラインを確立。このように、内製プログラム・現場実装・社内外アウトリーチを連鎖させた人材育成モデルは、金融業界におけるデータ活用文化醸成の先進事例である。
- ・ 学びを業績貢献と組織文化変革の両輪で回し続ける取り組みは、金融データ活用を支える人材育成として特筆すべき取り組みと評価される。

当社は、今後もデータ推進組織を中心とした全社的なデータ可視化とデータ分析および、それらを実現できる人材の育成を通して、全社員による DX の実現を引き続き目指してまいります。

< 参考 >

- クレディセゾンの CSDX（企業サイト）：
<https://corporate.saisoncard.co.jp/business/csdx/>